日本鉄鋼協会記事

第 62 回秋季講演大会　今回の大会は，秋田大学鉱山学部創立 50 周年記念会の招請に基づき，日本金属学会と連合の下に 10 月 17 日から 3 日間秋田市において開催され，次の諸行事が実施された．

I　学術講演会　10月 17，18，19日の 3 日間秋田市手形字深田秋田大学学芸学部講堂において行なわれた．第 1 日の 17 日は 9 時 20 分開会．初めに渡辺大会実行委員長から歓迎の挨拶が述べられ，次いで浅田会長より開会の挨拶があつた後，5 会場においてそれぞれ講演が開始された．18日，19日の両日も同様午前 9 時30分から 5 会場にて講演が行なわれ，3 日間を通じ研究発表の講演数は 156 を算し，聴講者も合せて 400 余名の多数に及んだ．

II　鉄鋼技術共同研究会部会報告講演会　17日午後 1 時から学芸学部講堂において開催次の講演が行なわれた．

開会挨拶		幹事長	山岡　武氏
鉄鋼圧延と変形抵抗の最近の研究について．	鋼材部会圧延理論分科会	主査	井上勝郎氏
線材圧延設備の最近の進歩	鋼材部会線材分科会	主査	菖蒲正俊氏
本邦における鉄鉱石直接還元技術の推移	新技術開発部会直接還元法分科会	主査代理	雀部高雄氏

III　公開講演会　18日午後 6 時から秋田市大町魁新聞社講堂において開催された．

講演	科学技術の進歩と人間形成	東京大学総長	茅　誠司氏
	わが国製鉄業の展望	日本鉄鋼協会々長	浅田長平氏
映画	海に築く製鉄所	八幡製鉄株式会社提供	

IV　懇親会　17日午後 5 時から秋田市土手長町仲町秋田産業会館において日本金属学会と合同で開催された．最初に渡辺実行委員長の挨拶があり，浅田鉄鋼協会々長，大日方金属学会々長よりもそれぞれ挨拶があつて開宴，余興として秋田音頭，竿燈などの珍らしい郷土芸術も披露された．両会々員は秋田銘酒を酌んで互に談を交わし，歓を尽して懇親を重ねた．この日の出席者は 200 名を超え頗る盛況であつた．

V　事業運営懇談会　18日午後 6 時から秋田市土手長町グリル秋田クラブにおいて開会，東北支部よりは青木支部長代理ほか役員 5 氏，本部よりは佐藤副会長ほか役員委員 10 氏出席して，協会の事業運営，特に講演大会，講習会の実行方法，会誌の編集，欧文誌のあり方などについて意見の交換を行い，懇談を重ねて午後 8 時散会した，

VI　工場見学会　本会並びに日本金属学会の会員約 420 名は次の 5 班に分れ，20日，21日の両日にわたり工場，鉱山等の見学を行なつた．（詳細は第 14 号見学記参照）

第 1 班　三菱金属鉱業秋田製錬所，東北肥料秋田工場，帝国石油秋田鉱業所
第 2 班　鉄興社酒田工場
第 3 班　岩手木炭製鉄，富士製鉄釜石製鉄所
第 4 班　日曹製鋼八戸工場，日本高周波鋼業八戸工場
第 5 班　同和鉱業小坂鉱業所

臨時総会　昭和 36 年 10 月 17 日午後 1 時から秋田市手形秋田大学学芸学部講堂において開催．浅田会長議長となつて次の議案について審議，満場一致原案通り可決した．

議案　　定款一部変更の件

社団法人日本鉄鋼協会定款中次の通り変更する．

1．定款第 10 条中（1 口の金額 5,000円）とあるを（1 口の金額 10,000円）に改める．
2．定款第 11 条中年会費 1,200円とあるを，年会費 1,500円に改める．
3．定款第 12 条中年会費 800円とあるを，年会費 1,000円に改める．
4．定款第 13 条中年会費 2,160円とあるを，年会費 2,880円に改める．

付　　則

第 10 条，第 11 条，第 12 条および第 13 条の変更定款は，認可のあつた日から施行し，昭和37年 1 月 1 日から適用する．

議事終了後 Hunt 賞授賞式を行ない，かねて A. I. M. E. (American Institute of Mining, Metallurgical and Petroleum Engineers) より委託のあつた Hunt 賞を浅田会長から住友金属工業株式会社和歌山製鉄所土居寧文，河西健一両氏に贈呈し式を終つた．

第7回理事会　日時: 10月25日 (水) 午後4時開会. 会場: 協会々議室. 出席者: 浅田会長ほか19名.
報告事項: Ⅰ. 評議員黒田泰造氏逝去の件. Ⅱ. 編集委員会に関する件. Ⅲ. 企画委員会に関する件. Ⅳ. 秋季大会に関する件. Ⅴ. クリープ試験に関する件. Ⅵ. 工業標準原案委員会の件. Ⅶ. 国際溶接会議に関する件. Ⅷ. 独乙鉄鋼協会年次大会に招請の件.
協議事項: Ⅰ. 編集委員交代の件. Ⅱ. 企画委員交代の件. Ⅲ. 事務所移転に関する件. Ⅳ. 明年度秋季大会に関する件. Ⅴ. 九州支部に補助金交付の件. Ⅵ. 大河内賞候補者推薦の件. Ⅶ. 9月中収支決算の件. Ⅷ. 9月中入退会その他会員異動の件.

第8回編集委員会　日時: 10月31日 (火) 午後5時開会. 会場: 協会々議室. 出席者: 佐藤理事ほか 17 名.
報告事項: Ⅰ. 会誌第 11 号完成および第 12 号完成見込について. Ⅱ. 第 62 回講演大会について.
協議事項: Ⅰ. 会誌第 11 号の講評. Ⅱ. 投稿論文の審査. Ⅲ. 37年第1号掲載論文の選定.

第7回企画委員会　日時: 10月10日 (火) 午後5時開会. 会場: 協会々議室. 出席者: 俵(隆)理事ほか8名.
報告事項: Ⅰ. 秋季大会に関する件. Ⅱ. 石原研究奨励金に関する件.
協議事項: Ⅰ. 東洋レーヨン科学技術賞および科学技術研究助成金候補者推薦の件. Ⅱ. 大河内賞候補者推薦の件 Ⅲ. 朝日賞候補者推薦の件. Ⅳ. 欧文誌編集委員1名推薦の件. Ⅴ. 欧文誌掲載会社工場選定の件.

評議員逝去　本会評議員黒田泰造氏 (元日本製鉄株式会社取締役) は急病にて 10 月7日逝去されました. 謹んで哀悼の意を表します.

編集委員交代　編集委員野崎善蔵氏地方に転出のため辞任, 後任に高橋俊雄氏 (大同製鋼株式会社平井工場管理課長) を委嘱した.

企画委員交代　企画委員知崎喬氏地方に転出のため辞任, 後任に鳥羽亮一氏 (住友金属工業株式会社東京支社技術部次長) を委嘱した.

(特許記事　1749 ページよりつづく)

可鍛鋳鉄の製造法

特公・昭35—14904 (公告・昭35—10—10)　出願: 33—10—1, 発明: 川島洋太郎, 松下　亨出願: 理研ピストンリング工業株式会社

C 1·8～3·2%, Si 1·6～2·2%, Mn 0·45%以下 P 0·13%以下, S 0·5% 以下を含有する白銑を鋳造する工程と, その白銑を加熱し 900～1050°C の温度範囲で少くとも遊離セメンタイトが焼戻炭素とオーステナイトに分解する迄焼鈍する工程と焼戻工程に直ちに続いて或は加熱して組織を同じく焼戻炭素とオーステナイトにせしめた後に続いて230～450°C の温度の液体中に急冷し, 同温度範囲の一点又はそれ以上の箇処で 20～150 分間保持又焼戻す工程との結合を特徴とする.

圧延機の組立部分に対する雌ネジ及び心軸から成る調節装置

特公・昭35—14907 (公告・35—10—10) 出願: 33—9—8, 優先権: 1957—9—9 (独), 発明: カール・ノエマン 出願: メーレル・ウント・ノエマン・ゲゼルシャフト・ミット・ベシュレンクテル・ハフツング

球状黒鉛鋼の製造法

特公・昭35—15002 (公告・昭35—10—11)　出願: 32—10—12, 発明: 音谷登平, 丸山益輝, 師岡保弘, 形浦康示, 出願: 金属材料研究所

一般鋼においてはC含有量 1·7% 以下, 特殊合金鋼においてはC含有量 2·5% 以下の溶湯中に 0～2% の弗化 Ca を溶剤とし, Ca 0·01～1% と, Ce 0～1%, Li, Sr Ba 元素のいづれか一種または一種以上 0·001～1% とを添加処理し, Ca 0·001～2%, Li, Sr, Ba の何れか一種または一種以上 0·0001～0·1% と Mg 0～0·03% とを残留させ, この処理溶より熔湯を鋳込む.

材料熔断装置

特公・昭35—15007 (公告・昭35—10—11)　出願: 33—2—27, 発明: 伊藤悌二, 米井　滉, 出願: 八幡製鉄株式会社

彎曲管製造法

特公・昭35—15008 (公告・昭35—10—11)　出願: 33—3—24, 出願発明: 田島正一

真空脱ガス金属熔解鋳造方法

特公・昭35—15205 (公告・昭35—10—13)　出願: 33—10—2, 発明: 林　主税, 出願: 日本真空技術株式会社

粉鉄鉱製錬装置

特公・昭35—15553 (公告・昭35—10—18)　出願: 32—8—7, 出願発明: 久保　要

密閉耐圧構造の熔解炉に還元筒を側面に横方向に気密的に連絡し, 該還元筒内には螺旋輸送機を備え, 該還元筒内に充満輸送中の粉鉄鉱と該熔解炉の排気とを加圧の下に接備せしめて粉鉄鋼を短時間に連続的に還元鉄にするようにした.

流動処理炉装置

特公・昭35—15554 (公告・昭35—10—18)　出願: 35—12—27発明: 横田信三, 出願: 四国化成工業株式会社

製鉄用電気炉

特公・昭35—15555 (公告・昭35—10—18,　出願: 32—10—16, 出願発明: 中島統一